

Curry
+
night

Genderous
symposium

Open mouth to
Uncover
Taboos.



2006年に、琉球大学大学院修了生が在学中に指導教授から性的暴力を受けたとして、教授と琉球大学を裁判所に提訴しました。

第一審、裁判所は両者の関係は原告の意に反するものではなかったと結論付けました。控訴審で、原告が和解を余儀なくされたときに、被告は「訴訟を通じてその関係が、意に沿わないものであったことを理解した」と述べるも、セクハラの実事そのものは否定しました。

2010年3月、琉球大学はセクハラの実定を見送ったにも関わらず、30日付で教授を諭旨解雇処分とし、翌31日には、教授の辞職願を受理した、ということが新聞紙上で発表されました。

琉球大学は、学習権の主体である学生に対して、この一連の経緯を一切説明することはありませんでした。

このような態度は、今も息づく性暴力の構造を放置し、「声」をあげた卒業生の勇気をも再度踏みにじるものであり、学生を始めキャンパスのあらゆる人々の「人権」を危機に曝しつづける暴挙です。

さらなる被害を防ぐためにも、大学は教授が諭旨解雇されるに至った過程についての説明責任を果たすべきであり、情報公開を行う義務があるはずで

現在、これらの情報の公開と、大学の状況を改善することを要求した公開質問状を学生有志は大学側に提出し、5月7日(金)までに、返答を求めています。

これらの問題を共有するために、下記のイベントを開催します。

■ Curry night ■

5/7 (Fri) @ 琉大図書館前 18:00 start
芝生の上

「Open mouth to eat.(口を開けばものも食う。)」
なにかを共有したい誰かと、美味しいものを気持ちのいい場所で食べる、ということはとても素敵な経験。きっと気づけば唄が生まれる。
今夜は夜空の下で、おいしいカレーをいかが？

ジェンダラス シンポジウム

vol.2
5/9 (Sun) @ 久茂地 15:00 start
公民館

- contents -

- i. セクシュアル・ハラスメント裁判再考
→パネリスト(未定)
- ii. 学生による公開質問状についての報告

OUT and 合意してないプロジェクト

問い合わせ * genderous.out@gmail.com